

- 問1 ある地域において、観光振興に向けた基礎資料を得るために、訪問者の居住地や交通手段、宿泊状況などを把握する実態調査を行うことになりました。この調査の対象として最も適切なものはどれですか。 (2017年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-------------------------|----------------------|
| 1. 駅の改札を利用している通勤者や通学者 | 2. その地域を訪れている観光施設の利用者 | 3. 地域内の宿泊施設に滞在している宿泊客のみ | 4. 観光地にある商店や施設で働く従業員 |
|-----------------------|-----------------------|-------------------------|----------------------|
- 問2 二千二十四年時点の統計において、群馬県、茨城県、愛知県、三重県などの県で、その地域の総人口に占める数値が四パーセント以上という高い水準を示している指標として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 青森県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------|-------------|------------|------------|
| 1. 第一次産業就業者の割合 | 2. 在留外国人の割合 | 3. 老年人口の割合 | 4. 合計特殊出生率 |
|----------------|-------------|------------|------------|
- 問3 ある果実の生産状況をまとめた資料において、山梨県が圧倒的な収穫量を誇り、全国の約4分の1近くを占めていることが示されています。この果実が山梨県の盆地の緑などで多く栽培されている理由として、地理的な背景から最も適切な説明を選びなさい。 (2023年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| 1. 平坦な広大な土地により、大型機械を導入した効率的な生産が可能のため | 2. 夏の降水量が非常に多く、湿潤な気候が栽培に適しているため | 3. 低湿地で保水力が高い土壌が、果実の成長を促すため | 4. 傾斜地や扇状地は水はけが良く、日照時間が確保しやすいため |
|--------------------------------------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
- 問4 都市部から地方への人の動きについて説明した次の文章のうち、Iターンに該当するものはどれですか。最も適切な説明を選びなさい。 (2024年 福井県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 地方の町村で生まれ育った人が、出身地の近くにある地方の中核都市へ移住して働くこと。 | 2. 地方の農村部で生まれ育った人が、都市部の大学へ進学し、そのまま都市部で就職すること。 | 3. 地方から都市部の企業に就職した人が、結婚や転職を機に、自身の出身地へ戻って生活すること。 | 4. 都市部で生まれ育った人が、就職や自身のライフスタイルの変化などをきっかけに、縁のなかった地方へ移住すること。 |
|--|---|---|---|
- 問5 東京都中央卸売市場における農産物の流通において、季節ごとに主産地が変化する様子を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。なお、1月の取扱数量1位は静岡県、3月と11月は茨城県、8月は長野県であるという統計に基づき考えてください。 (2022年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 春と秋は、消費地から遠く離れた九州地方などの遠隔地からの出荷が、市場の大部分を占める。 | 2. 冬の間は、日照時間が短く積雪の多い日本海側の地域が、主要な供給地として出荷を伸ばす。 | 3. 夏の間は、冷涼な気候を活かして野菜を生産する長野県などの高冷地が、主要な供給地となる。 | 4. 1年を通じて、茨城県などの東京都に隣接する県が、すべての月で取扱数量の1位を維持している。 |
|--|---|--|--|
- 問6 物流業界における「再配達」の削減を目指すデジタル技術の活用について、その仕組みと目的を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2024年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. デジタル技術で受取人の在宅状況を把握し、事前に受け取り日時や場所を調整することで、物流の効率化を図る。 | 2. SNSを通じて近隣住民に荷物の配送を代行させるシステムを構築し、プロの運転手の負担をなくす。 | 3. 配送車両の走行距離を制限するアプリを導入し、一定距離以上の配送を強制的に停止させる。 | 4. 最新の通信技術を用いて、全国の配送拠点をすべて無人の自動倉庫に置き換えることで、人件費を削減する。 |
|--|---|---|--|
- 問7 日本付近の海流について、宮城県沖などで潮目を形成し、好漁場を生み出す要因となっている「南から北上する暖流」と「北から南下する寒流」の名称の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2021年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------|----------------------|-------------------|---------------|
| 1. 対馬海流と親潮（千島海流） | 2. 黒潮（日本海流）と親潮（千島海流） | 3. 黒潮（日本海流）とリマン海流 | 4. 対馬海流とリマン海流 |
|------------------|----------------------|-------------------|---------------|
- 問8 日本が、冬から春にかけて不足するかぼちゃんなどの農産物を、ニュージーランドなどの国々から多く輸入している理由として、地理的な背景をふまえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2023年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|
| 1. 熱帯地域に位置しており、一年を通じて常に収穫が可能であるため | 2. 南半球に位置しており、日本と季節が逆で収穫時期が異なるため | 3. 冷凍保存技術が発達しており、長期の保存と輸送に適しているため | 4. 広大な農地を持ち、日本よりも安価に大量生産ができるため |
|-----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|
- 問9 近年の日本において、食料品や日用品の購入が困難になる「買い物難民（買い物困難者）」が社会問題となっています。ある地域の2000年から2020年にかけての人口構成の変化において、65歳以上の高齢者層が著しく増加しているという統計があるとき、この地域で買い物難民が発生しやすくなる地形的・社会的な理由として最も適切なものはどれですか。 (2026年 山梨県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 平坦な土地に住宅が密集した結果、店舗を建設するための用地が不足し、遠方へ店舗が移動したため | 2. 公共交通網の整備が過度に進んだことにより、徒歩圏内にある小規模な小売店がすべて廃業したため | 3. 地域の高齢化が進み、住宅地周辺にある急傾斜地などの高低差による移動が身体的な負担となったため | 4. 若年層の人口が増加したことで、住宅地から離れた大規模なショッピングセンターへの需要が集中したため |
|--|--|---|---|
- 問10 太陽光発電や風力発電は、二酸化炭素を排出しない再生可能エネルギーとして普及が進められていますが、火力発電と比較した際に、天候などの自然条件によって発電量が左右されるために生じる課題は何ですか。 (2018年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------|----------------|------------------|--------------------|
| 1. 燃料の枯渇が懸念される | 2. 電力の安定供給が難しい | 3. 有害なフロンガスが発生する | 4. 放射性廃棄物の処理が必要になる |
|----------------|----------------|------------------|--------------------|
- 問11 国境を越えた商品の売買を自由に行う「自由貿易」がもたらす影響について、適切な記述はどれかを選びなさい。 (2019年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 自国と関係の深い国々の間だけで関税を低くし、それ以外の国からの輸入品には高い関税をかけて市場を独占する。 | 2. 市場の拡大により得意な製品の輸出を増やせる反面、海外の安い製品の流入により国内産業が打撃を受ける。 | 3. 輸入品の種類や数量に厳しい制限を設けることで、国内で不足している物資のみを計画的に輸入する。 | 4. 国内産業を保護するために輸入品に高い関税をかけ、国内での競争を制限することで生産者の利益を確保する。 |
|---|--|---|---|
- 問12 日本の果物栽培をめぐる国内の状況と海外との関係について述べた文として、最も適切なものはどれか。 (2025年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 先端技術の導入により労働力が不要となったため、生産量や輸出量は変動せず横ばいで推移している。 | 2. 外国産の輸入果物との競合により輸出量は著しく減少しているが、技術開発により国内の生産量は急増している。 | 3. 国内での消費量が急速に拡大したため、国内の生産量と海外への輸出量の両方が大幅に増加している。 | 4. 農業就業者の高齢化などにより国内の生産量は減少傾向にある一方で、質の高さなどが評価されて海外への輸出量は増加している。 |
|---|--|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 その地域を訪れている観光施設の利用者	地域の観光実態を正確に把握するためには、実際に観光を目的として訪れている「観光施設の利用者」を調査対象にするのが最も適切です。駅の乗降客には観光以外の目的を持つ人々が含まれ、宿泊客のみを対象とした場合は日帰り客の動向を把握できないため、観光振興のためのデータとしては不十分になります。施設利用者に直接アンケートを行うことで、訪問頻度や周遊場所といった具体的な動態を収集できます。
問2	答え 2 在留外国人の割合	自動車工業などの製造業が盛んな北関東や東海地方の県では、労働力として日本に中長期的に滞在する外国人が多く居住しています。そのため、それらの県では総人口に占める在留外国人の割合が、全国の他の地域に比べて高くなる傾向があります。
問3	答え 4 傾斜地や扇状地は水はけが良く、日照時間が確保しやすいため	ぶどうなどの果樹栽培には、乾燥気味で水はけの良い土地が適しています。山梨県に多く見られる扇状地は、傾斜があるため日当たりが良く、さらに土壌の粒子が粗いため排水性に優れており、高品質な果実を作るための条件を満たしています。
問4	答え 4 都市部で生まれ育った人が、就職や自身のライフスタイルの変化などをきっかけに、縁のなかった地方へ移住すること。	都市部から出身地ではない地方へ移住する形態を、アルファベットの「I」の字の動きに見立ててIターンと呼びます。これに対し、地方から都市部へ出た後に再び出身地へ戻ることをUターン、出身地の近くにある地方都市へ移住することをJターンと呼び、それぞれ区別されます。
問5	答え 3 夏の間は、冷涼な気候を活かして野菜を生産する長野県などの高冷地が、主要な供給地となる。	日本の農業では、気候条件の違いを利用して、異なる地域が時期をずらして同じ品目を出荷する「産地リレー」が行われています。東京都に近い茨城県などは春や秋に多く出荷し、夏には冷涼な長野県などの高冷地、冬には温暖な静岡県や九州地方が主産地となります。これにより、都市への安定的な食料供給が可能になっています。
問6	答え 1 デジタル技術で受取人の在宅状況を把握し、事前に受け取り日時や場所を調整することで、物流の効率化を図る。	再配達への削減は、物流業界における人手不足（物流の2024年問題）や環境負荷の低減を解決するための重要な施策です。デジタル技術を活用して、荷物の受け取り側が自分のスケジュールに合わせて柔軟に日時や場所（宅配ボックスや提携店舗など）を指定できる仕組みを整えることで、配送の無駄を省き、持続可能な物流ネットワークの構築が進められています。
問7	答え 2 黒潮（日本海流）と親潮（千島海流）	日本列島の太平洋側では、低緯度側から暖かい海水を運ぶ黒潮（日本海流）と、高緯度側から冷たい海水を運ぶ親潮（千島海流）が流れています。この二つの海流が東北地方の沖合でぶつかることで、世界有数の漁場が形成されます。対馬海流とリマン海流は日本海側を流れる海流です。
問8	答え 2 南半球に位置しており、日本と季節が逆で収穫時期が異なるため	ニュージーランドは南半球にあるため、日本が冬から春に向かう時期に夏から秋の収穫期を迎えます。国産の入荷量が減少する時期に、ちょうど収穫されたばかりの農産物を輸入できるため、季節による入荷量の偏りを補うことができます。
問9	答え 3 地域の高齢化が進み、住宅地周辺にある急傾斜地などの高低差による移動が身体的な負担となったため	2000年から2020年にかけての人口構成の変化において、高齢者層が著しく増加すると、地域全体で身体的な移動能力が低下する傾向にあります。これに加えて、住宅地が急傾斜地などの起伏の激しい場所にある場合、高低差が移動の大きな障壁となります。自動車を所有しない高齢者が増える中で、徒歩や自転車での移動が困難になり、近隣に店舗がないことが死活問題となる「買い物困難者」の発生を招いています。
問10	答え 2 電力の安定供給が難しい	太陽光は夜間や雨天時に発電できず、風力も風の状況に依存するため、常に一定の電力を生み出し続けることが困難です。電力の需要に合わせて供給量を調整する必要があるため、天候任せになりやすいこれらの発電方法では、蓄電池の活用や送電網の整備といった対策が求められます。
問11	答え 2 市場の拡大により得意な製品の輸出を増やせる反面、海外の安い製品の流入により国内産業が打撃を受ける。	自由貿易は、関税などの障壁をなくすことで、品質や価格で優位に立つ自国の製品をより広い市場へ輸出できるメリットがあります。しかし一方で、生産コストの低い海外製品が大量に流入するため、価格競争で不利になる国内産業にとっては、経営が悪化し衰退するなどの大きなリスクを伴います。
問12	答え 4 農業就業者の高齢化などにより国内の生産量は減少傾向にある一方で、質の高さなどが評価されて海外への輸出量は増加している。	日本の農業では、就業者の高齢化や人手不足によって果物の生産量が全体として減少傾向にあります。その一方で、日本産の果物は品質が良く安全であるとしてアジアなどを中心に需要が高まり、輸出量は増加しています。このような背景から、限られた働き手で生産量を維持・確保するための技術活用が期待されています。